
魔法少女がご主人様じゃ嫌ですか？

迷音ユウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女がご主人様じや嫌ですか？

【NZコード】

N0768T

【作者名】

迷音コウ

【あらすじ】

どうもこんにちわ。主人公の朝山祐樹です。
はい

待つたくさいなんなことに、いまおかしなことになつてます。
だれか、正直助けてくださいよ。

何で僕が、

「魔法少女」
の下僕なんかに・・・

プロローグ（前書き）

わるのりしてかいてます。続くかどうかはわかりません。
勢いって怖いね

プロローグ

えー・・・、かいつまんでお話をさせていただきますと、今、僕はとても奇怪な状況です。なんだろうね、これ。

えーっと、僕は確か、学校が終わって、歩いて帰宅していたはず。それで、確かに近所の駄菓子屋の角を曲がった辺りに、一人の僕と同じぐらいの歳の女の子がいまして、まあ、その子とぶつかってしまったわけです。そのまま倒れこんで、僕の手はその女の子の胸をさわってしまったとかいう・・・。まあ事故なんだけど。あきらかに。

そしたら、その子がいきなり、「はい、あなた死刑決定」とかいつて、満面の殺意のこもった笑みで追いかけてくるから、まあそりやあ驚いた。いや、これだけならまだ理解の範疇なんだけど・・・。

何せその女の子は変な呪文らしきものを唱えたかと思うと、少女の横の空間に魔法陣が現れ、それが光りだし、いつの間にか少女の横には、三つ首の黒い犬みたいな生物がいたり、はたまた、そいつが追いかけてくるので、さらにスピードを出して逃げていますと、再び女の子は呪文を唱え、今度は後ろから雷が飛んでくる始末。

これはなんなんだ！？

ちょっと整理しよう。

僕は学校から家に向かつて帰りました。駄菓子屋の角で女の子とぶつかって、少しえらいことに。それで、女の子はなぜか魔法らしきものを使い、僕を追いかけてきている。

これは・・・・・、夢？

僕は依然走っている。まあ、一応長距離には自信がある。でも、長距離を走るときは、ずっと全力疾走っているわけではないので、今全力で逃げているのなら話は別だ。すぐ後ろには、女の子が呼び出した謎の犬が俺に噛み付こうとして、何度も空ぶつっている。おー・

・・こわ。

「待ちなさい！この変態男！」

女の子は後ろから叫んでくるが、僕は無視する。取り合つてゐる暇等ない。今止まれば、確実にこの犬の餌食にされる。

「なんなんだ―――！もうまじで！！」

バゴー――ツツン――

「！？」

後ろから雷が飛んできた。幸い僕にはあたらなかつたが、電柱にあたつた。電柱は木つ端微塵に吹き飛ぶ。

「――――――――！」

もう言葉にもならない。冗談じゃない。僕が悪いとはいえ、こいつは本当に殺す気だ。

「ゴメンって！！僕が悪かつたから…！」

僕はもう何度もか知らない叫びを、空に向かつて吐き出した。無駄な体力消費とは思いつつ。

「別に謝つても嬉しくないもんね！謝りついでに死んで…」

もう、言つてることが無茶苦茶だ。やつてることもだけど。

僕は前を向いた。丁字路。・・・・・。僕はなにかをひらめいた。お、これならこの犬を撒けそうだ。

ガウツガウツ！

後ろから犬（？）の鳴き声が響いてくる。

僕は丁字路の突き当たり、ぎりぎりまで行き、・・・・・カク

つ、と直角に曲がった。我ながら、きつちりと。

ドシーン！ ギヤウン！

犬（？）はそのまま壁に突進してしまい、その場に倒れ、氣絶した。

「ちつ、私の可愛いケルベロス（ペット）を・・・・・」

後ろから舌打ちが聞こえた。ていうか、あれのどこが可愛いんだ。

そんなことよりもいいのだが・・。

「私の、私のケルベロスを・・・・・、よくも!」

無休の限界を置かない。

「やせー・・・・・・・・、このままじゃ追いつかれる・・・・・・・・
まじめに、危機感を感じた。このままじゃ『殺される』。

耳を劈くような音がした。僕の膝はなぜかガクリと折れ、僕は地面に跪く。急に腹が痛んだ。腹を押える。ベチャッという音とともに

「え……？」

血。血だつた。僕は恐る恐る、自分の

穴があいていた。と、完全に貫通

僕は振り向く。

さっきの女の子がいた。

思ひ知ったかしら? ケルヘ「スの仇に取らせてもうた

1

最初の目的を忘れてはいるのだろうか。いつのまにか、僕を追いかけていた。目的が変わつていたらしい。・・・と、急に視界が歪んだ。意識が朦朧としてくる。

女の子とぶつかったのが原因で、しかもその女の子に殺されて死ぬなど・・・・・・ありえない。しかし、僕を待ち受けているのは『死』。それ以外にない。何せ腹に大穴があいている。もうだめだろう。

「なつさけないわね。大丈夫殺しまではしないよ。こんなところで殺人犯になりたくないからね」

殺人犯になりたくないからね

女の子は、またなにやら不思議な呪文を唱える。

すると、僕の穴の開いた腹のはさむように、二つの緑色の魔法陣が現れた。その魔法陣はくるくると回転をはじめ、僕の腹にあたつた。

۱۷

魔法陣が完全に僕の腹と密着すると、魔法陣はぴかっと光った。数秒後、魔法陣は消え、僕の腹の穴はふさがっていた。塞がつていたのだが・・・・・。そこにはなぜか変な紋様みたいなものが刻まれていた。

「な、な、な、なにこれ！？」

僕は必死に腹の紋様をこする。しかし取れそんな気配はない。

ああ、それは、それはね

ききちがえたかと思つた。

だつてさ。あなた、ケルバ

僕がそうこうと、ギロリと睨まれた。僕は少し身を縮こませる。

からぬつゝ漢字

はああああああああああ！？

かいつまんでお話させていただきますと、
僕朝山祐樹は、今日この女の子の下僕になってしましました。

あさらかに、

事故です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0768t/>

魔法少女がご主人様じゃ嫌ですか？

2011年5月7日21時40分発行